

2026年1月23日

株式会社ダスキン

ダスキン愛の輪基金を通じ、ドーナツが笑顔と夢につながっている。

ダスキン障害者リーダー育成海外派遣事業 派遣研修生へのインタビューも紹介

1月27日は『ミスター・ドーナツ創業の日』

当日はお買い上げいただいた売上的一部分を障がい者リーダー育成のために役立てます。

株式会社ダスキン（本社：大阪府吹田市、社長：大久保 裕行）が運営するミスター・ドーナツは、1月27日に『ミスター・ドーナツ創業の日』を迎えます。

ミスター・ドーナツ事業は、株式会社ダスキンの創業者 鈴木 清一が米国でミスター・ドーナツに出会い、「こんなにおいしいドーナツを一人でも多くのお客様に食べていただきたい」という思いからスタートいたしました。

1970年1月27日は、鈴木 清一が日本でのミスター・ドーナツ事業の展開を決断した日です。この記念すべき1月27日を『ミスター・ドーナツ創業の日』と定め、毎年日々のご支援、ご愛顧いただいている皆様への感謝の気持ちを込め、以下の取り組みを実施しております。これからも、創業当時より大切にしてきた手づくりのおいしさと心からのおもてなしで、お客様にくつろぎの時間をお届けしてまいります。

■1月27日はミスター・ドーナツショップ近隣の清掃活動を行います

日頃支えていただいている地域の皆様への感謝を込めて、ミスター・ドーナツのスタッフでショップ近隣の清掃活動を実施します。

※一部ショップでは実施しておりません。

■1月27日の売上的一部分を「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」に寄付させていただきます

1月27日にミスター・ドーナツ店舗でお買い上げいただいた売上的一部分を障がいのある方の自立と社会参加を支援する「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」に寄付させていただきます。当日はショップでドーナツをお楽しみいただき、社会貢献活動への参加をしてみませんか。



■「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」について



1981年、ミスター・ダスキン創業10周年を迎えた翌年の国際障害者年に「障がいのある方の自立と社会参加の支援」を目指して設立。地域のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者を海外に派遣し、実地研修していただく「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」と、アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本に招き、実地研修していただく「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」の2つの人材育成事業に取り組んでいます。詳細はホームページをご覧ください。
(www.ainowa.jp)

«ダスキン障害者リーダー育成海外派遣事業 第42期派遣研修生 奥村 泰人さんインタビュー»

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金 ダスキン障害者リーダー育成派遣事業で海外研修に参加された奥村 泰人（おくむら・やすと）さんにインタビューを行いました。公式ホームページではインタビューの様子を動画でもご覧いただけます。ぜひご覧ください。

——ダスキン愛の輪基金の研修に応募されたきっかけを教えてください。

もともと私は俳優として、舞台やテレビなどに出演していました。2020年頃、コロナ禍で仕事も減っていく中、家で悶々としていました。その時間を利用して自分を見つめ直し、もっと演技を勉強したいと思うようになりました。しかし、日本では演劇の学校はなかなかろう者（生まれつきや音声言語を習得する前に失聴した人）が入りづらい環境です。

色々と思い悩んで仲間に相談したところ、演技を勉強するにはフランスが良いのではないかとすすめられました。そこで調べていくうちに、ダスキン愛の輪基金にたどり着きました。当時から仕事関係でろう者や難聴者の俳優たちとよく会っていましたが、ダスキンの研修に参加された先輩や同僚が多くいました。みなさんから経験談を聞き、応募することにしました。

——フランス留学が決まってから、どのような準備をされましたか。

海外に留学経験のある方からアドバイスをもらったり、フランス手話言語を指導する講師にマンツーマンで指導してもらったりしました。しかし、コロナの影響でなかなかビザを取れないなど計画通りに進まず出発することができませんでした。そんな中、ダスキン愛の輪基金が情勢を鑑みて契約期間を延長してくださり、出発することができました。今振り返ると、フランスでの生活よりも渡航前の準備が一番大変だったと思います。



——現地ではどのような生活をされていたか教えてください。

事前にフランス手話言語を勉強していたものの、フランスに着いた当初はあまり上手くコミュニケーションが取れず、分からぬことだらけでした。手話言語を覚えつつ、手話言語を使う友人や、ろう者・難聴者の友人をつくることに必死でした。入学する前に、パリのろう者の劇団の活動を見学したり友人とコミュニケーションを取りながら、手話言語を覚えてきました。

——手話言語というのは世界共通ではなく国ごとに違うものなのでしょうか。

よく誤解されていることなのですが、手話言語は共通ではありません。言語が、日本語・英語・フランス語と国によって違うのと同じで、手話言語も日本手話言語、フランス手話言語、アメリカ手話言語などがあります。

——日本にいるときもコミュニケーションには手話言語が必要だったと思いますが、海外となるとより大変でしたか。

どちらかというと、むしろフランスのほうがコミュニケーションの面ではストレスフリーだと感じました。というのも例えばお店に行った時に、日本ではろう者と伝えるとどのように対応しようかとか、筆談した方がいいのかなとか、そんな感じで店員さんが少し困ってしまいます。

一方、フランスではろう者だと伝えても店員さんにそのような反応をされません。「それがどうしたの？」という感じなのです。分け隔てなく、ごく当たり前に「人」として見てもらえるのが一番良いところだと思っています。多国籍な国なので、いろいろな人を受け入れる文化なのかなと思います。

——いざ留学生活が始まり、フランスは「芸術の国」のイメージ通りでしたか。

はい、イメージ通りでした。ろう者の視点としてもフランスは芸術が盛んであり、歴史があります。フランスのろう者による芸術祭「クランドウイユ」が2年に一度開催されたり、ろう者で構成する劇団「IVT」などがあったりと、とにかく芸術が盛んな国だと感じました。また、フランスは子どもも大人も芸術について話をしたり議論したりすることも好む国柄だなと思いました。例えば講演の際、最後に質疑の時間があります。日本では「質疑はありますか」と尋ねると、手が上がるのが1人か2人ぐらいというようなイメージでしょうか。一方フランスでは、列をなして質問をしてくるのです。それも慣れているようなので、これが当たり前の環境なのだと感じました。

——学びの中で記憶に残っているエピソードなどはありますか。

学校では演技技術、役づくり、感情表現など、基本的なことから1年間学びました。研修先は色々なところに行つたのですが、パリのテーマパークでの体験は衝撃的でした。歌やダンスをする舞台があり、ろう者の俳優が他の俳優と同じきらびやかな衣装を着て舞台を自由に動き回っていたのです。ある作品では幕が下りる前のみんなで歌うシーンで、ろう者の俳優自身が手話言語で演じていました。日本の舞台で例えば手話通訳をつける際は、舞台の端で手話通訳が立っているイメージだと思うので、この差には驚きました。また、別の機会にろう者の俳優が出ている舞台を行つた際、入口でろう者の俳優が出演しているか聞いてもスタッフは知らなかつたのです。パンフレットにもわざわざ「ろう俳優」との記載はなかつたのですが、実際は出演していました。ろう者を他の人と分け隔てなく扱っていることが印象に残りました。

——学ぶ中で「気づき」はありましたか。

「École de Théâtre Universelle（以下 ETU）」という学校で学んでいたのですが、その創立メンバーの先生からいただいた「ろう者向けの公演のためではなく、純粋に演技が好きでその追及のために勉強してほしい」という言葉が鮮明に残っています。例えば日本の俳優で演技を学ぶ理由として、日本語を広めるためという方はほんらいしゃらないと思います。ですが、ろう者の場合は手話言語やろう者のために演技を学ぶという人も少なからずいるのです。私自身、演技を始めたのは「好き」だからだったのですが、いつの間にか「ろう者のため」と思うようになり世界を狭めていたことに気づかされました。改めて、演技をしたいから学びたいという気持ちに気づき、気持ち的に楽になりました。

——留学で得た一番大きなものは何だったのでしょうか。

1年間、演技を集中的に学べたことです。日本で演技を手話言語で学べる場はありませんが、今回の研修では手話言語で学べたのが一番の大きな成果だと思っています。フランスでは観光地のツアーガイドの公式言語として手話言語が必ず入っているほど「当たり前」の存在なので、学校でも手話言語で学ぶことができて良かったです。

——留学によってどんなところに成長を感じられていますか。

演技に対する見方や心構えの面で、成長しているなと感じる部分があります。もちろん、演技に関しては正解がないと思いますので、ずっと勉強していくかなくてはと思っています。

——お仕事をする上で大切にされていることがあれば教えてください。

留学以前からですが、「感謝の気持ちを持つ」ことを大切にしています。例えば俳優の仕事においても、やはり一人ではできないと思うのですね。舞台、メイク、照明、技術などなど、一つひとつの仕事があるからこそ、自分の演技ができると思っています。また、フランスに留学する前は多くの仲間が応援してくれました。空港にも40人近くの人たちが来てくれたのです。そうした経緯もあるので、感謝の気持ちを持ち続けなければいけないと思っています。

——最後に、今後の目標を教えてください。

小さい頃から、「きこえる人・ろう者関係なく、みんなが楽しめる場や作品を提供する」という夢を持っています。そのために今、劇場や学校などどんな「場」があるか探しているところです。今回、ダスキン愛の輪基金を通じてフランスに留学し、多くの刺激を得られましたし、多くの仲間や考え方などに触ることができました。今後はこれを生かして、夢をどのように実現していくのか考えていきたいです。



ミスター・ドーナツ公式ホームページ：ミスター・ドーナツ創業の日

インタビュー動画は公式ホームページからもご確認いただけます。

https://www.misterdonut.jp/torikumi/sdgs/shakai_03.html

■店頭募金箱の設置

全国のミスター・ドーナツショップには通年、募金箱を設置しています。皆様からのお心遣いが集まり、障がいのある方を支える大きな力になっています。お寄せいただいた募金は、「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」に寄付させていただいており、日々の運営や障がいのある方の支援に役立てられています。

2025年募金額：6,937,184円

(2025年1月～12月実績)



【本件に関するお客様からのお問い合わせ先】

ミスター・ドーナツお客様センター TEL：0120-112-020

ホームページ www.misterdonut.jp